



一年の締めくくりは、大そうじ!



今でも覚えている印象的な「年次だより」があります。2007年、その当時1年次主任だった高橋久仁子先生によって発行された「一年次だより 10月号」です。高橋先生は2,3年次生が放課後の清掃時間にしっかり膝をついて雑巾がけしている姿を見て、「こうやって丁寧に掃除をしているから西高の校舎がいつまでも綺麗に保たれている」と感心し、その姿を1年次生にも見習ってほしいというメッセージを込めて年次だよりの話題にしたのだと思います。

それから14年の月日が経ち、西高の校舎もそれなりに老朽化が進み、またコロナ禍で清掃の様式が変化する中でも放課後の清掃時には女子はスカートの裾を気にしながら膝をつき、また男子は制服のズボンの膝が汚れるのも気にせず膝をついて丁寧に雑巾がけをしています。この姿を見ると「これが言葉で伝えるものではない伝統なのかな」と高橋先生の年次だよりを思い出します。

先月の大掃除に1年次生の各クラス10名くらいが校外清掃に出た時の話です。校外清掃に出る生徒たちはジャージで参加し、校内に残って掃除をしていた生徒たちは制服で作業をしていました。私が校外清掃に出ていた生徒たちと帰ってくると、昇降口の清掃をしていた1年男子生徒が「自分たちもジャージに着替えたかった。大掃除の時は制服が汚れてしまう!」と、先生に指示されていないのに自主的に下駄箱の上の清掃をして埃まみれになった制服の汚れを払いながら話してくれました。こういう生徒がいるおかげで西高は古いながらも(トイレにはドアが無くてカーテンだけ)清潔に保たれているんだなあと改めて感じました。

さあ今日は年末の大掃除です。一年間の汚れをみんなできれいにして新しく始まる2022年を気分よく迎えましょう。そして、去年は受験生だったから念入りにできなかった自宅の大掃除も、家族任せでなく、自ら積極的に動いて飛躍の一年を迎える準備を整えよう!

保護者の皆様へ 今年一年ありがとうございました。来年も宜しくお願いいたします。

4月の入学以降、保護者皆様には本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、ありがとうございました。冬休みは何かと家族行事も多いですが、出来るだけ規則正しい生活リズムを保ち、メリハリのある環境作りにご理解とご協力をお願いいたします。また、来月1月20日(木)から2回目の三者懇談が行われます。これまでのご子弟の学校生活の様子や今後の進路等についての情報を交換し、新2年次生に向けて今後の指導についての共通理解を図りたいと思いますので、ご参加をお願いいたします。 1年次主任 平岩岳実

～1月行事予定～

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	土		元日	16	日		大学入学共通テスト
2	日			17	月	A	きずなの日 第3回進路希望調査
3	月			18	火	A	
4	火			19	水	A	第5回マナーアップ運動
5	水			20	木	A	三者懇談 短縮45分授業
6	木		冬季休業終了	21	金	A	三者懇談 短縮45分授業 春季原付免許取得説明会
7	金	B	休業明け集会 LHR	22	土		
8	土			23	日		
9	日			24	月	B	三者懇談 短縮45分授業
10	月		成人の日	25	火	B	三者懇談 短縮45分授業
11	火	B	きずなの日	26	水	B	三者懇談 短縮45分授業
12	水	B		27	木	B	三者懇談 短縮45分授業
13	木	B		28	金	B	三者懇談 短縮45分授業
14	金	行	学びの基礎診断(ベネッセ総合学力テスト) 冬季バイク通学許可式	29	土		土曜講座
15	土		大学入学共通テスト	30	日		
				31	月	A	大掃除・前期募集選抜検査会場準備

◎先生方からの寄稿 今月は3組の担任 新海大博先生、副担任 風間富美子先生です。

「少年の日の思い出」

新海 大博

中学2年の時に、凄まじい腹痛が私を襲いました。腹をくだした感じではなく、引っ張られるような強い痛み。その場で収まるときもありましたが、収まらず保健室に行くときもありました。段々頻度が上がり、2日に1回くらい起こるようになりました。保健室で治るときもあれば、治らない時もありました。大体起こるのは昼11時頃。

あまりに回数が多いのでとうとう病院に行くことになりました。当時は体調が悪くても病院に行く習慣が各家庭になく、病院に行くのは久しぶりでした。なぜか親が選んだのはやぶ医者で有名な〇〇医院。やぶだと知っていましたが、その時は藁にも縋る思いで受診しました。その時に下された診断は「肉の食べ過ぎ」。肉を食べすぎて野菜を採っていないからだ、と言われました。

次の日部活の友人にそのことを伝えると、あっという間に広がり、私のあだ名は「肉」になりました。毎日からかわれました。当時の小中学校は生き抜くの大変ですね。しかしその後、食生活を改めても腹痛は続きませんでした。

卒業し、そのことを忘れていましたが、今振り返るとあの腹痛の理由が分かります。あれは当時の部活が原因でした。当時陸上部の長距離に所属していた私は、今でも毎週の練習メニューを言えるほど、毎日の練習のきつさを覚えていて、毎日の部活に行くのがいやでいやでいやでいやでしょうがなかったのです。3年間、頑張っただけでやり切れよって言うのは簡単、やるのは大変。当事者はその時の長さを永遠に感じます。でも負けず嫌いだった私は休まず、中3の引退時までやり切りました。良くも悪くもこのおかげで根性が身につく、どんな大変なことでもあの練習よりは楽だと今でも胸を張って言えます。そういう意味ではやはり、厳しい部活は尊いのかな・・・。



私は走るの好きで、今でも1時間程度のランニングはするし、運動も大好きです。ただ、毎週1000m×3本とか400m×10本とか私にはつらすぎました。そして、不思議な気がしますが、当時その辛さが身体的痛みにつながっているなんて分らなかったのです。自分の身体は自分が一番よく知っている。でも自分の身体でも自分が分かっているということもあるんです。

今、何らかの身体的痛みを抱えている人。その原因を分かっている人もいれば、原因を間違っている人、また理由が分からない人もいると思います。ただ、その痛み理由は、後になって、今の自分に対して客観的にならないと分からない場合もあるからね。

良くも悪くも「今の生活」がずっと続くことはないのですから。

「草取り、トレッキング、家庭菜園」

風間 富美子

先日の「京都大学学びコーディネーター事業特別講座」では、理系の白井雄さんの話を聴講しました。関西弁で、聞いているだけでほっこり楽しい気分させてくれますね。昆虫を使って、そんな先端研究がなされているのかと驚きました。皆さんから良い質問が多く出されたことも、講座をより深みのあるものにしていました。講座の最後に、課題研究へのメッセージとして「高校の学習はみんなが同じことを勉強するので競争になってしまうけれど、課題研究では自分でテーマを選び好きなことができるから、その分野に関しては自分が一番詳しいんや、ということに喜びを感じて取り組んでみては」と話されていました。

折しも、12月14日付の朝日新聞にノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎さんのインタビューが載っていたのですが、その中に、「若い人は格好が良いテーマではなくて、自分の本当にやりたいことが何なのかを自問自答して、それをやらないといけない。好きこそもの上手なれで(略)」というお話がありました。



自分の好きなものって何だろう。自問自答し見つけていくわけですが、そのヒントは何気ないところにあるように思います。勉強、部活動、友人や家族との会話、様々な人の活動、読書・・・日常生活の中で見聞きし経験したことを通して興味対象を見つけ、それを楽しんでやることが、大きな喜びや成果につながっていくのかもしれない。

ちなみに私が今楽しんでいることは、草取り、トレッキング、家庭菜園です！ひよっとしたら家の畑から新種の昆虫が見つかるかもと目を凝らしながら続けてみます。